

2022年度（令和4年度）

第2回 学校関係者評価委員会 議事録

日時：令和5年3月27日(月) 16:00～17:30

場所：福山医療専門学校内1階 会議室（リモート開催）

記録者：清水 麻住

出席者：12名

西川 文雄、西村 和人、灰垣 俊志、住田 祐輝、東京太郎、仁泉 健太郎、村上 彰宏、濱藤 春暉、曾田 修治、藪田 素子、清水 麻住、竹下 順也（学園教職員）

欠席者：2名

佐々木 伸樹、望月 重伸

1. 開会挨拶

仁泉（副学校長・副委員長）より挨拶

2. 学校長・委員長挨拶

東（学校長・委員長）より挨拶

今年度を振り返り、各学科より実績報告をいただきたい。その結果および課題、改善方策について以下の視点から評価を行った。評価委員の皆様からのご意見いただきたい。

（挨拶の後、議事録作成の指名と議事録署名人の指名があった）

3. 報告事項

本会議の議長に東学校長、記録者に清水事務次長を指名し、下記の議事審議に入る。

議案1 2022年度（令和4年度）における実績について、各学科長から実績報告があった。

濱藤（作業療法学科 学科長）

2022年度実績報告について

■新入学生 目標：40名 実績：18名

■退学者 目標：5.0% 実績：6.9%

■国家試験合格率 目標：100% 実績：72.2%

入学生について、目標値を大幅に下回った結果となった。前年度は定員に達していたが、極端な割れ具合には対策が必要である。退学者も1.9ポイント増加しており、学科の運営に

問題があるのかもしれない。教員からの指導は講義評価を見ても高評価であるが、実績値がすべて低迷しているため、カリキュラムから見直しが必要であるのではないか。「作業療法士」資格取得が最優先であるが、4年間の講義・実技を受ける中で、付加価値のある資格取得も魅力を作る方法も模索していく。介護業界の資格と照合しながら、作業療法士として質の高いケアができる人材の育成をし、他校と差別化していきたい。

【2022年重点事項】

1. 入学生の確保

【結果】

入試広報部とも連携し、オープンキャンパスや体験授業（高校ガイダンス）に取り組んできたが、募集人数の増加に繋がらず目標値に対して22名減となった。

要因として、高校ガイダンスでは現在、依頼があればすべての高校に訪問し、実施しているが、体験者数が少ないことである。その理由は商業高校やスポーツの盛んな高校に行った場合によく起こる。興味が無い学生が多い高校に行くとところで活動の効果が薄いと感じる。高校訪問は、重点的に介護・福祉業界に関連する高校を強化していくべきである。

オープンキャンパス体験からの受験率は、56.3%であった。前年度は76.4%と大幅に減少したことが一番の要因。学科としては魅力をもっと伝えていかなければならない。

来年度は65%以上を目指す。

2. 教育活動の強化

【結果】

授業準備や学生対応に時間が割かれていることが原因の一つとなり、改善方策を講じた。他学科では地域交流を実施し、外部団体とのつながりも作っていき、地域に根差した学科運営も必要となる。単なる外部団体の講師を招聘しての講話ではなく、人としての思いやり育ませるため、ボランティア活動も検討していきたい。

村上（理学療法学科 学科長）

2022年度実績報告について

■新入学生 目標：40名 実績：40名

■退学者 目標：5.0% 実績：11.0%

■国家試験合格率 目標：100% 実績：86.1%

入学生については目標達成できた。入試広報部との連携も効果的であり、興味のある学生を多く獲得することができた。退学者について、目標値を大きく下回る結果となり、深刻な問題であると捉えている。1年生・2年生において、学力低下の見られる学生が50%を超えており、かなり指導していかなければならない。単位取得が困難な科目も一定数あるため、カリキュラムの構成に問題がある可能性がある。入学生のうち30%程度はスポーツ分野に興

味がある学生がいるので、「トレーニング論」や「スポーツ栄養学」など学びに興味を湧く科目設定も検討したい。国家試験合格率については、目標を達成できなかった。前年度よりは11ポイント減少したが、学力の底上げを実施できたため、まずはその結果として受け止めたい。来年度は全員受験全員合格を目指す。

【2022年重点事項】

1. 教育活動の強化

【結果】

退学者の要因のほとんどが学力低下のため、学習に対応できていない。これはカリキュラム構成に困難な科目設定が多いのではないかと見直すべきである。2年生・3年生での離脱が共に37%を占めており、特に3年生から始まる短期実習の時期と重なる。専門科目から実践につながる分岐点で細かいケアを行っていく必要がある。

また、本学科も外部団体との接触が少ないため、今後増やしていくことで学生への精神的ケアにもつながるのではないかと考える。

曾田（救急救命学科 学科長）

2022年度実績報告について

■新入学生 目標：30名 実績：24名

■退学者 目標：10.0% 実績：2.0%

■国家試験合格率 目標：100% 実績：100%

入学生については、定員は達していないが定員充足率68%まで引き上げることができた。来年度以降も体験ガイダンスの実施回数を増やし、募集につなげていきたい。退学者については、前年度よりも16.4ポイント改善できており、主に1年生の2名体制ケアが効果的であった。学習低下の見られる学生に細かい指導が実施でき、脱落者を出さず学力向上につながった。国家試験合格率は100%を達成できた。来年度以降も定期的な模試で評価をとりながら、継続していく。

【2022年重点事項】

1. 教育活動の強化

【結果】

1年生から学力模試を強化して、細かい区切りをつけながら反復学習を実施した。学年を超えて競争が生まれ、全体の相乗効果となったことで学習意欲の向上が図れた。国家試験合格率100%の達成が学生に良い刺激を与えた。

薮田（看護学科 学科長）

2022年度実績報告について

- 新入学生 目標：40名 実績：28名
- 退学者 目標：12.0% 実績：27.9%
- 国家試験合格率 目標：100% 実績：81.8%

入学生については、開学してから過去最低の実績となった。募集活動よりも学科内の体制に問題があると感じる。教員経験による指導方法のズレや学生ケアにつながりが見えない場面があった。これは退学者にも大きく影響を及ぼしており、前年度よりも15.9ポイントも増加してしまった。一方で今年度は、国家試験合格率にこだわり指導を強化していたため、合格率は過去最高値を出すことができた。まだまだ全国平均には劣っているため、引き続き教員の安定化と授業展開の効率化を図る。

【2022年重点事項】

1. 教育活動の強化

【結果】

入学者への基礎テストや入学前教育の強化、また在學生においても模擬試験の回数を増加し、国家試験対策を強化した。その反動で学力が伴っていない学生へのケアが想定以上に増加した。教員の質も確保しながら、コロナでの実習中止、再開の調整で注力したが、結果として退学者を増やすことになった。来年度は緩和策を講じながら、国家試験合格率を引き上げていく。

4. 報告に対する意見

仁泉副委員長

各学科の報告事項に関して具体的な提言をお願いします。

西川様（企業等評価委員）

作業療法学科・理学療法学科において、退学者が多いこと、また国家試験合格率も低迷していることは死活問題である。各学科長が述べられたように、カリキュラムの改変が必要なのではないか。やはり地元である福山市ともっと提携して、学生に意義のある科目設定をしていただきたい。例えば、地元スポーツ団体と協働して実技科目を設定することも検討できるでしょう。特に本校は、サークル・部活動、学園祭や文化祭もないので、講義・実技の連続では精神的に負担がかかってくることも無理はない。もっと学生に「楽しさ」を学ぶ機会を設けてもいいのではないかと。すべては人としての思いやり、成長に結びつくと感じる。

灰垣様（卒業生）

西川様が言われたとおり、遊びの部分は必要かと思う。

私たちのときは、イベントとして「運動会」があり、そこでみんな本気で競技をしていた。競い合うことでチームワークが生まれ、とてもいい思い出となっている。一日中講義を離

れ、バカ笑いしたり、雑談したりと日々ストレスの発散になっていた。今はコロナをきっかけに交流も疎遠になり、どこか寂しさを感じる。ぜひ、来年度から何か一つでもいいので、楽しいイベントを実施していただき、学生の思い出を作る材料にしていただきたい。

村上（理学療法学科 学科長）

コロナ感染による授業出席ができない学生への配慮としてオンラインも取り入れて実施した。急な風邪症状の学生との区別をしながら、学生個々の連携は密にできたと感じている。しかし、退学者の実績値はなぜ増えたのかは学科内でしっかり協議し、指導方法とカリキュラム内容について見直ししていきたい。西川様がおっしゃられた地域との交流は、来年度のテーマにしていきたい。

西村様（企業等評価委員）

各学科にて目指す資格が異なる中、国家試験合格率 100%達成したことは素晴らしいことである。救急救命学科は前年度と何が違ったのか？

曾田（救急救命学科 学科長）

一番は学生のケアについては、手厚く 2 名体制を実施したことと感じる。本科の場合、学生数も 20 名程度ということで 1 名の教員に任せていたが、学力低下の生じている学生には細やかな指導ができなかった。国家試験にこだわって取り組んだ結果でいい実績値につながった。ただ、あまり強化ばかりすると脱落者が出てくる可能性が高まってしまい、結果退学者へつながるので緩和策も必要となる。

西村様（企業等評価委員）

看護学科において、退学者の数が異常ではないか？

藪田（看護学科 学科長）

本科では主に実習で脱落する学生が多いことがわかっている。これにはコロナ感染により、実習中止及び学内での補充実習の繰り返しが生徒の負担になっていた。また、試験での単位取得が困難な学生も増えており、要因は基礎学力の低下である。入学前教育を令和 4 年度から取り入れているが、すぐには向上しておらず分野別の科目学習を強化している。在校生においても、宣誓式などのイベントを実施し、なぜ看護師を目指すのかという観点から再度目標設定をし直して、モチベーション維持に努めている。

5. 閉会の挨拶

仁泉副委員長

本日はお忙しい中、本校のためにお時間を頂戴しありがとうございました。問題視すべき

課題が多くあり、非常に有意義なお時間となりました。来年度に向けて、一つ一つ改善していくことをお約束します。

本日いただいたご意見は、学校運営に活かしてまいります。貴重なご意見をいただきありがとうございました。

以上をもって各審議・報告事項を終了する。